

# 小さな消防団

…… 豊原保育所防火パレード ……

11月9日(木)秋の火災予防運動の初日、豊原保育所の園児たちによって、防火パレードが行われました。園児たちは一人一人「ひのようじん」と書かれた旗を持ち、火災予防を呼びかけました。

また、英語指導助手のティエラさんが、1日消防署長に委嘱され、パレードの先導役を務めました。



## 滝坂

### 神楽舞奉納



11月2日(木)、滝坂の黄幡社で滝坂神楽舞が奉納されました。黄幡社には多くの観客が訪れ、次々と練り広げられる伝統の舞を楽しみました。



午後9時「あしならし」の舞が始まり、太鼓や横笛・合わせ鉦などの調子に合わせ、24種類の舞のうち18の舞が、翌日の明け方まで披露されました。

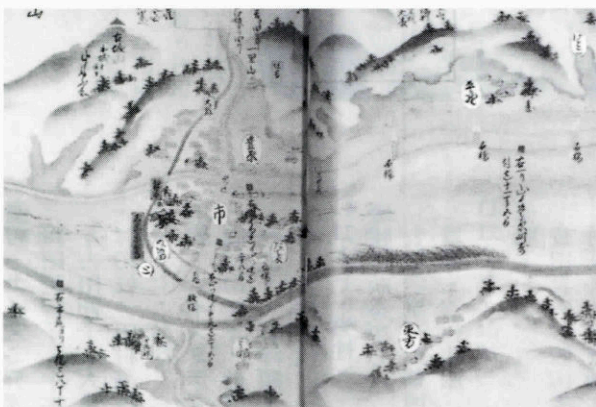


## わがまちの文化財

(7)

### 船

### 戸



「御国廻御行程記」

船戸は豊原の西北、東関淵下の左岸にあたり、ここには、もとは立派な石畳が川の中へ突き出して築かれていたという。藩政時代には、三隅三ヶ村はもとより、真木村・洪木村・於福村方面の年貢米をここに集め、ここから上荷船に積み重ねていた。風土注進案(天保一三年、弘化三年)には、廻船貳艘但百貳拾石積壹艘八拾石積壹艘と記されている。年貢米の他に生活物資を積んだ船の出入りも多く、

豊原は「津」(みなと)ともいわれ、川番所を置き税の取り立ても行っていた。また、豊原の蓼原には、宝永二年から宝暦元年(一七〇五〜一七五二)にかけて前大津代官所(勘場)が置かれていて、代官所に入出入りする他村の庄屋や村役人、年貢米を運ぶ人々、上荷船で運ばれる生活物資を受け取る人々等多くの人々が賑わい、また、それらの人々を相手に商売も繁盛していた。

天保五年(一八三四)、三隅川下流が多年の洪水のため川が浅くなり、船舶の通航が困難となり船戸からの年貢の積み出しも危ぶまれるようになった。そこで三隅村の庄屋たちが会議を開き、代官所から米を借り受け、これを運用して利子を得て資金に換え、川浚えを行なった。その後も明治維新ころまで

明治維新ころまで何回かの川浚えが行われている。

